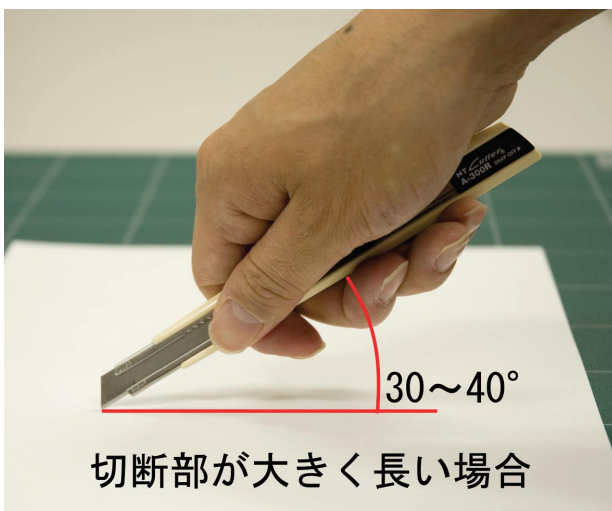




カッター

かッター



概要

カッターは、主に紙・布・軟質ビニルなどの薄手の素材を、刃を押し当てることにより切断する道具(刃物)です。また、鉛筆などを削る道具としても用いられます。ナイフや小刀と違って切れ味が悪くなった場合は、刃先を折ることで切れ味を保て、刃の交換も容易なのが特徴です。ちなみに、この刃を折る方式のカッターを開発したのは日本のメーカーであるOLFA社です。

カッターを安全に使うには、刃を1折り刃分押し出し(刃の出し過ぎに注意)、鉛筆を握るような持ち方でカッターの角度を30~40度位に傾けて手前方向に引いて切ります。作業は体の正面中央の見下ろした位置で行い、切る方向に対象(紙など)を動かしつつカッターも向きを合わせて動かして切り進めます。直線に切る場合は、定規などを当てて切ると真っ直ぐに切れます。厚いものや発泡スチロールは、力を入れて一度で切らず、何度か切断部をなぞって切りましょう。さらに、段ボール箱などは、カッターを突き立てた後、刃をノコギリのように押し引きして少しずつ切り進めます。

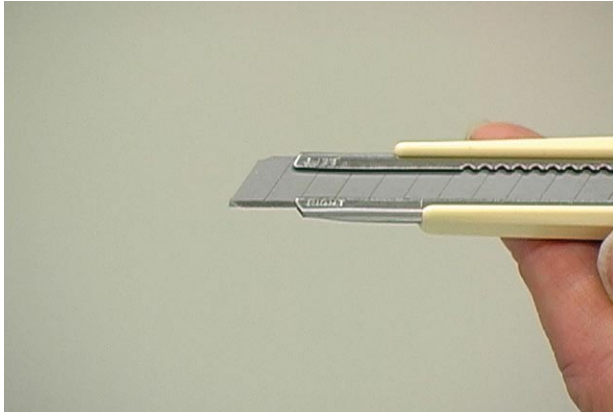
カッターは切断素材や目的により、様々な形状や替刃の種類があります。もっとも一般的なカッターは、主に紙などの薄手のものを切ることに適した、刃の幅9mmで12枚の替刃が連なる小型刃用カッターと、ダンボールなどの厚いものに用いる刃の幅18mmで替刃が7枚連なる大型刃用カッターです。また、同様のホルダー(持ち手部分)を利用した替刃で、アクリル板の切断に用いるカギ型をした刃もあります。この他に、精密な切り抜き作業に適したペン型のホルダー形状をし、一般的な小型刃よりも鋭い刃先を持つデザインナイフと呼ばれるカッター、布のような薄く柔らかなものを円盤状の刃を回転させて切るロータリーカッター、紙を円形に切るためのサークルカッターなどがあります。

注意事項として、作業時に机などがキズ付かないようにカッターマットなどの下敷きをしましょう。また、折った刃は危険なので、折り刃専用のケースに入れるなどして適切に処分しましょう。カッターを人に手渡す場合は、刃をホルダー内に引込んだ後、カッターの後ろを相手に向けて渡しましょう。

カッターは事務用品店や文房具店等で購入できます。

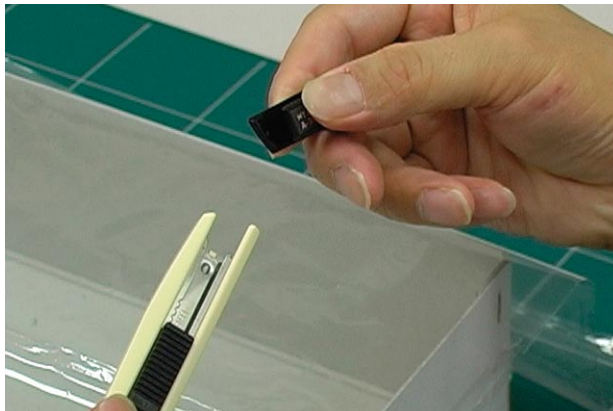
あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
数字

カッター 取扱いの基本 1

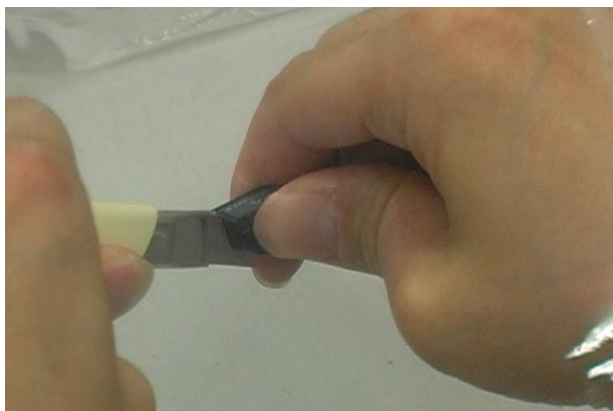


スライダを動かし、刃を一折り刃分押し出します。刃の出し過ぎは危険なので注意しましょう。

カッター 取扱いの基本 2 (刃の折り方)

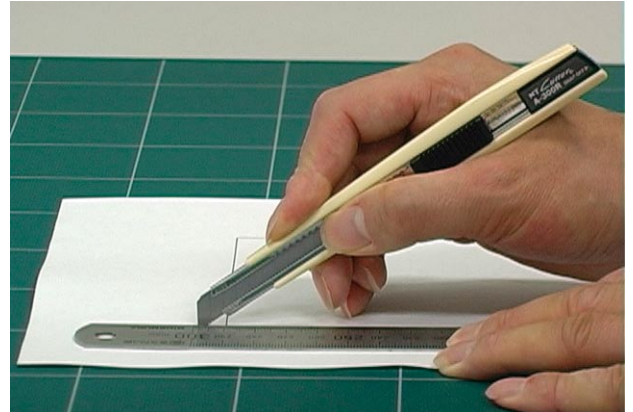


手順1. 刃を折るときは、カッターの後ろに付属する刃折り具を使い、折った刃が飛散ないように、空き箱の上でビニールをかぶせて折ります。



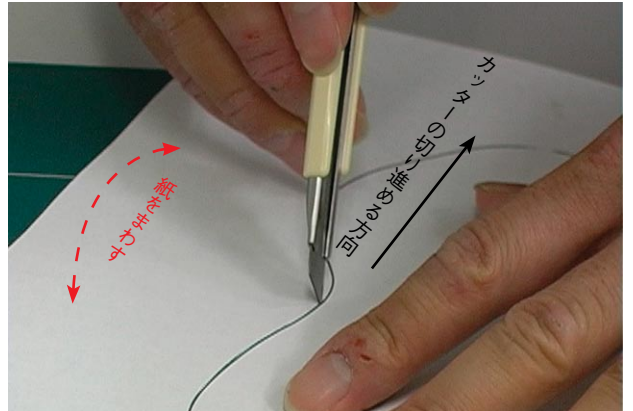
手順2. 刃を一目盛り出して刃折り具ではさみ、外側に折って新しい刃に替えます。古い刃は、危険なので適切に処分しましょう。

使用例 1 直線に切る場合



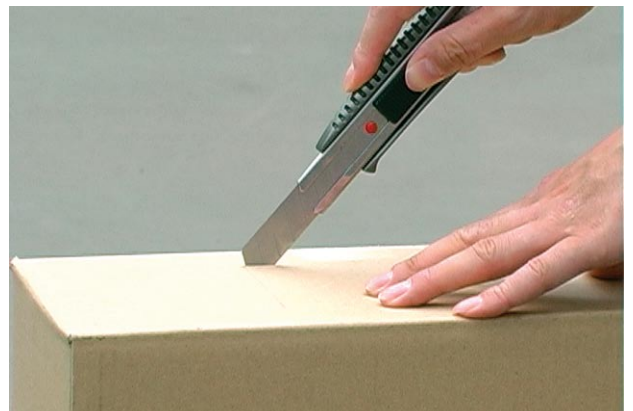
直線に沿って鉄定規をあて、手でしっかり固定します。刃先を定規と適度に押しつけ、垂直に奥から手前へ切り進めます。

使用例 2 曲線に切る場合



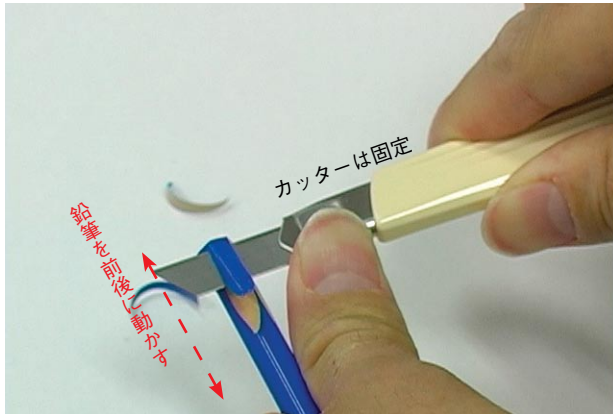
曲線は、カッターを動かして切るのではなく、紙を回しながら手前の方向に切り進めることで安全に切れます。

使用例 3 段ボール箱を切る場合

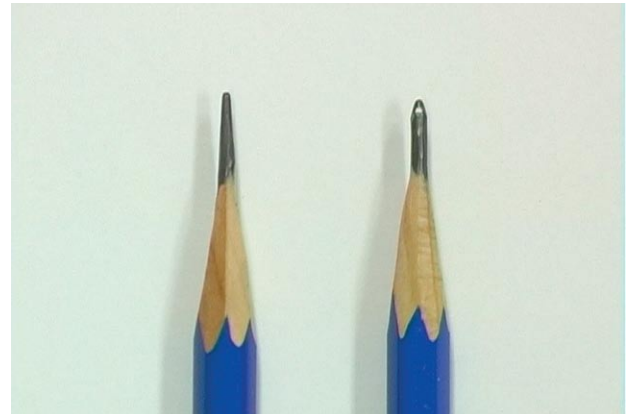


まず、段ボール箱に刃先を差し込んでから刃を伸ばすことで、安全に扱えます。のこぎりのように上下させて切り進めます。

使用例 4 鉛筆（デッサン用）を削る場合



手順 1. カッターの背を親指で押さえ、鉛筆を前後させて削ります。カッターは振らずになるべく固定し、鉛筆を回転させながら稜を削っていきます。



手順 4. 長く削った芯は折れやすいため、鉛筆の硬度により芯の長さや尖らせ方を工夫・調整しましょう。

左：芯が硬い鉛筆

右：芯が軟らかい鉛筆



手順 2. 芯は刃先で削って角を落とし、仕上げます。



手順 3. 削り終わったら、芯をならしておきます。